

	<h1>大砂土小だより</h1>	学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」 ～ 努め合い・学び合い・共に育つ ～
		<目指す児童像> 豊かなコミュニケーションの下で、 かしこい子(知) 明るいい子(徳) たししい子(体)
令和8年2月27日 第11号		TEL 663-7005 FAX 663-9886
大砂土小学校 ホームページ http://osato-esaitama-city.ed.jp/		メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

「春」よ来い。

校長 新堀 栄

風はまだ冷たく、本格的な春の訪れが待ち遠しい今日この頃です。けれども、毎朝子どもたちを迎えるために門に立っていると、朝の日差しの角度が少しずつ高くなってきたことに気づきます。季節は、確かに春へと歩みを進めているようです。

最近、インターネットの特集で「好きな季節ランキング」というものを見かけました。そこでは、約4割(42%)の人が「春」を一番好きな季節に挙げていました(ちなみに、2位は秋で32%、3位は夏、4位が冬でした)。

春が好まれる理由としては、①ぼかぼかとした陽気が心地よいから、②桜をはじめ、さまざまな花が咲き始めるから、③卒業や転勤など、別れと旅立ちのイメージがあるから、④4月から新年度が始まり、新たな出発や出会いの季節だから、⑤進学・進級を通して成長を感じられるから、などが挙げられていました。どれも「なるほど」とうなずける理由ばかりです。私にとって春を表す言葉を一つ挙げるとすれば、「麗らか(うららか)」でしょうか。春の季語でもあるこの言葉には、柔らかな日差しや、晴れやかでのびやかな気分が込められており、「春うらら」という表現にも使われます。

さて、1年が経つのは本当に早いものです。いよいよ締めくくりの3月を迎えます。大砂土小学校にも、また新たな春が訪れようとしています。今週行われた今年度最後の授業参観では、年度当初よりも一回りも二回りも大きく、たくましく成長したお子さんの姿をご覧いただけたことと思います。そんな子どもたち一人ひとりに、大きな拍手を送りたい気持ちでいっぱいです。

3月は卒業・修了の月であり、子どもたちにとっては1年間の学校生活の総まとめの時期です。同時に、進学・進級に向けた準備を進める大切な月でもあります。学校では、残りの1か月を、子どもたちが今年度の学びや生活を振り返り、次の学年への夢や目標をしっかりと描けるよう、大切に過ごしてまいります。

6年生は、5年生との「お別れ球技会」や「6年生を送る会」、「奉仕活動」などの行事を経て、来月24日に大砂土小学校を卒業します。この1年間、6年生は下級生の手本として学校全体を引っ張ってくれました。委員会活動や行事の運営、日々の生活の中で見せてくれた姿は、まさに「最高学年」としての誇りと責任に満ちていました。卒業を目前にした今、その背中はとても頼もしく、まぶしく映ります。残された一日一日を大切に過ごし、小学校生活の思い出を一つでも多く心に刻んでほしいと願っています。

在校生もまた、それぞれの場所で自分の役割を見つけ、仲間とともに学び合い、支え合いながら歩んできました。できなかったことができるようになった喜び、自分の思いを言葉にして伝える力、相手の気持ちに寄り添うやさしさ…。子どもたちの中に芽生えた「成長の芽」が、春の光を浴びて、いよいよ花開こうとしています。

この一年、子どもたちは喜びや楽しみだけでなく、つらく困難なことにも向き合ってきました。今年度の学校生活を振り返りながら、自分自身をじっくり見つめ直し、「頑張ったこと」「できるようになったこと」「頑張ったけれどもう少しだったこと」「これから挑戦したいこと」などを明確にし、年度末の学びや生活の中で、自らの成長の足跡を確かめてほしいと思います。そして、新たな夢と希望を胸に、進学・進級へと力強く歩いてほしいと願っています。

春は別れと出会いの季節。別れは寂しいものですが、その先には新しい出会いと希望が待っています。子どもたちがこの学校で育んだ力を胸に、それぞれの道に自信をもって歩いていけるよう、これからも温かく見守り、支えてまいります。

3月も、保護者・地域の皆様の変わらぬご支援・ご協力を、どうぞよろしく願いいたします。